

平成 28 年度 学校評価報告書（実施結果）

| 視点 | 4 年間の目標 (平成 28 年度策定) | 1 年間の目標 | 取組の内容 | | 校内評価 | | 学校関係者評価 | 総合評価（3月31日実施） | |
|----------------------|---|--|---|--|---|--|--|--|---|
| | | | 具体的な方策 | 評価の観点 | 達成状況 | 課題・改善方策等 | （3月24日実施） | 成果と課題 | 改善方策等 |
| 1 教育課程 学習指導 | ①専門性を追究した教育活動を充実させる。 ②商業と工業の連携による特色ある教育活動を実践する。 ③学力及び技術技能の基礎力を確実に定着させる。 ④学習指導方法の改善を推進する。 | ①専門性に対する目的を持った意欲的な学習活動を推進する。 ②商業と工業の連携による学科を超えた教育活動を充実させる。 ③④授業改善のテーマを「すべての授業において、生徒の活動を取り入れた授業を実践し、生徒が自ら学ぶ姿勢を育成する。」とする。 | ①資格取得や有用な各種検定への合格対策講座を定期的に実施する。 ②「総合的学習の時間」および「課題研究」で学科を超えた教育活動を充実させる。 ③④教科会で「授業内における生徒の活動」について検討し、具体的な取組を実施する。また、研究授業において、テーマを踏まえた取組の成果を発表する。 | ①資格取得や各種検定の合格者が増加した。 ②商業と工業の学科を超えた連携事業を充実することができた。 ③④教科全体として、共通な取組を行うことができた。また、テーマを取り入れた研究授業ができた。 | ①アンケートでは、85%の生徒が、資格取得・各種検定の受検・各種競技会（ワープロ、ものづくりコンテスト等）等を受検、または参加し、学習活動を充実させることができたと回答している。①ワープロ競技大会では個人の部で優勝し全国高等学校ワープロ協議大会に出場した。①簿記では、少数学習を行うことで意欲向上と資格取得への効果が上がりが合格者が増加した。マーケティング、経済活動と法では積極的に資格取得の取組、情報処理では検定試験で一定の成果を上げることができた。それらは自信の実現を見据えた積極的な取組が功を奏している。 ①課題研究では、産学連携の試みとして楽天ネットショップでのコラボが実現し、生徒が考案したギフトセットが販売された。①事前講習会を行った結果、第一種電気工事士2名、第二種電気工事士7名の合格者を出すことができた。①県のロボフェスタに参加し、宇宙エレベーター等の課題研究の成果を出展した。①ものづくりコンテストへの参加生徒で専門技術の大切さと、ものづくりの楽しさを教えた。①資格取得では、危険物取扱者（乙1～6類）全類取得を目指すよう指導し、4名の生徒が取得した。 ②アンケートでは、79%の生徒が、外部機関（コンビニ、楽天等）と連携した授業、ものづくりとビジネス（本物館とのパンの商品開発）等、特色ある教育活動を実践し充実させることができたと回答している。②課題研究では理科と連携し「商と工のものづくり」と題し、キーホルダー型のロボットを全国産業教育フェアで発表し好評を得た。 ③④アンケートでは、86%の生徒が、各教科で生徒の主体的な活動（実験、実習、課題等の発表、グループ学習等）を取り入れた授業が実践され、思考力・判断力・表現力等の育成につながったと回答している。③④「授業内における生徒の活動」は各教科で取組を検討し、研究授業では生徒の状況を把握しつつ様々な活動を取り入れた授業を発表することができ、生徒が主体的に学ぶ意欲を高めることに繋がった。③④授業改善は、グループでの学習を取り入れ生徒同士で意見交換の時間を設定しコミュニケーション能力や課題解決能力を育てることができた。 | ①資格取得や各種検定で不合格となった生徒が再チャレンジしようとする気を奮起させる環境づくりを強化していく。①課題研究の発表に向けた取組にビジネスの要素を踏まえた積極的な活動ができるよう指導していく。①産学連携は様々な機会を与え、より多くの生徒がチャレンジできる環境を目指す。①今後も生徒の行動や動向に注視し安全教育を続けていく。①小中学生に興味関心を持ってもらう為、商工祭や産業教育フェア、商工体験教室で面白い化学実験、体験教室を実施する。①漢字検定、数学検定、実用英語検定はポスター掲示の他、授業内で予告等、周知方法を改善する。 ③④授業研究は、テーマ実施の課題として授業に集中させながら活動させるのが難しい生徒への対応をどのように工夫するかを検討する。④授業改善は、プリントの内容をより充実させ知識の定着に努め、グループ学習を取り入れ仲間との協力やコミュニケーション能力を高めるようにし、主体的な活動する楽しさが伝わるよう工夫する。 | （保護者）①アンケートでは、資格取得・各種検定の受検・各種競技会等を受検、または参加し、学習活動を充実させることができた。68%の保護者が十分またはほぼ十分できたと回答している。 ②アンケートでは、外部機関と連携した授業、ものづくりとビジネス等、特色ある教育活動を実践することについて61%の保護者が十分またはほぼ十分できたと回答している。 ③④アンケートでは、生徒の主体的な活動を各教科で取り入れた授業の実践をすることで、思考力・判断力・表現力等の育成について66%の保護者が十分またはほぼ十分であったと回答している。（学校評議員）①②商業の分野では社会で必要とされる内容が変化しているため生徒に目標をしっかりと伝えてほしい。 | ①補習等の実施により資格取得や各種検定に意欲的に取り組む生徒が増えているが、不合格の生徒のやる気を奮起させ合格に繋げることが課題である。 ②「総合的学習の時間」では商と工の学科を超え、ハマロン（浜栗）を商品化した校内販売も盛況であった。 ①②実社会で役立つ事務処理能力やPCスキルを身につけることが商業教育なので、分りやすく広報する。 ③④各教科で生徒の状況を把握しつつ具体的な取組、テーマを取り入れた研究授業ができた。授業に集中させながら活動させるのが難しい生徒への対応が課題である。 ③④生徒が自ら学ぶ姿勢を育てる効果的なアプローチを模索する。 | ①より専門性を追究した平成30年度実施の新カリキュラムが作成され、実施に向けて具体的に検討する。 ①補習を継続実施し、資格取得や各種検定の取組を再確認させる等の指導し合格者の増加を図る。 ②パンの商品化は企業と連携を強め店頭販売の実施も検討する。 ③よりきめ細やかな教育活動の実現に向け1学年を6クラス8展開とする。 ③④生徒が自ら学ぶ姿勢を育てる効果的なアプローチを模索する。 |
| 2 生徒指導 ・ 支援 | ①社会人基礎力と豊かな人間性を育む。 ②主体性を育み自立した人間の育成を図る。 ③教育課程体制の充実を図る。 ④学校行事や特別活動及び部活動の活性化を図る。 | ①生徒個々の日常的行動や動向に注視し、生徒とのふれあいを通じて基本的な生活習慣や規律、マナーを身につけさせる。 ②校内外の巡回指導等など、地域と連携しながら、生徒のマナーの向上を図る。 ③スクールカウンセラーとの連携による教育相談体制の充実を図る。 ④学校行事や生徒会活動、部活動について、新校舎移転等への対応を計画的に行う。 ④生徒主体の学校行事を実施するとともに、部活動加入率を上げ各部の活動の活性化を図る。 | ①基本的な生活習慣や規律、マナーが定着するたため、保護者や関係部署と連携・協力し、声かけ等の指導を積極的に行う。 ②遅刻をなくすために、保護者と連携した生活習慣全般の改善を指導する。 ③カウンセラーの来校日について広報し、カウンセリング室をより活用しやすい雰囲気づくりを行う。 ③生徒の心の悩みをいち早く認識できるよう努め、解決に向けて、職員、保護者、カウンセラーと情報交換を密に行い、教育センター等の連携した取組を行う。 ④新校舎移転、除却工事、グラウンド改修等を想定した学校行事を立案する。 ④部活動加入率を上げるべく、各部の活動を広報する等の方策を立案し、実施する。 | ①生徒の生活習慣の定着のための組織的な指導ができた。また、挨拶をする生徒が増加した。 ②遅刻防止指導を年5回以上実施し、遅刻の回数が減少した。 ③毎学期のカウンセリング日程等の広報が行えた。 ③生徒の抱える問題や情報を把握し、支援体制が有効に機能した。 ④新校舎移転等に対応した学校行事の計画・実施できた。 ④積極的に学校行事に参加する生徒が増えた。 ④前年度より部活動加入率が上がった。また、活発化した部活動が増えた。 | ①アンケートでは、「とても思う」「そう思う」「ややそう思う」を合わせて85%の生徒が、服装・頭髪指導や自転車指導、携帯電話教室の実施等の取組により、マナーを守る等の規範意識を持って生活するという態度が育成されたと回答している。①基本的な生活習慣や規律、マナーが定着するよう、毎朝、当番職員が立門立ち、登校時の服装指導を含めた朝の声かけを組織的に実施した。また、校門指導だけでなく全校集会においても周知徹底を訴えた。 ②年間5回定期試験後、遅刻指導に当たった。概ね、個々の生徒の遅刻回数には減少しているが、1学年お遅刻をする生徒数が増え、保護者と連携しつつ指導をしている現状がある。②校内外の巡回指導等しているが、地域の方々からの自転車の乗り方についての苦情が多く寄せられた。②年間2度の自転車指導週間では登下校における事故防止を全職員で指導した。 ③年2回、いじめアンケートを実施し早期発見・未然防止に努めた。③1年生を主に携帯電話教室や人権研修を行い、生徒の規範意識を高めることが出来た。 ③カウンセリング日程等も広報を確実にすることにより、相談を受ける生徒も多くなり、活用しやすいようである。③ケース会議や生徒情報交換会は定着し、授業担当者間の情報の共有はできた。 ④アンケートでは、「とても思う」「そう思う」「ややそう思う」を合わせて85%の生徒が、文化祭、体育祭等の学校行事や部活動、各種委員会に積極的に参加し、主体的に学校生活に取り組むようになったと回答している。④体育祭では、物品の移転作業を念頭において準備・片づけ作業を行なった。商工祭（文化祭）については、移転対応費の計上や新校舎移転に伴った会場設置などにより、概ね円滑に実施することができた。④部活動（同好会）の加入率は、5月1日現在の延べ数で53.4%（部員数計369/生徒数691）であった。若干ではあるが、昨年度より部活動加入率が上昇したものの、年度途中で退部する生徒もみられた。また、近年休部状態であった美術部の活動を再開し、演劇・合唱同好会が部昇格し、新たに文芸同好会が新設された。 | ①②基本的な生活習慣や規律、マナー定着のため、全校集会で授業規範について話をしたが、まだ生徒個々にまで浸透してない。1年を通して手応えはあったものの十分とは言えないので根気強く指導をする。 ①自転車通学の生徒達の服装については課題が残った。服装規定等を検討・改善を行う。頭髪指導・遅刻指導に関しては根気強く指導を積み重ねたが、さらに改善が必要である。 ③カウンセリングでは希望者が多く出た場合、調整が今後の課題である。校内だけでなく外部機関との連絡調整も行なう。③ケース会議や生徒情報交換会は個々の生徒ごとのような統一した支援体制をとるのが今後の課題である。 ④商工祭は、近隣店舗への無断駐車等の対応も課題となる。 ④個々の事情で退部する生徒もいる一方で、顧問が直接指導できる時間をなかなか確保できないという現状もみられる。入部率の向上を図りながら、入部した部員がその活動を継続できるように、今後も全職員の協力を得ながら部活動の活性化を図っていく。 | （保護者）面談や懇談会が一度もなく、子どもの学校での様子等、全く分からずあやうく連携と言われても取りようがない。面談、懇談会の実施を要望する。 ①アンケートでは、服装・頭髪指導や自転車指導、携帯電話教室の取組について、生徒のルールを守る等の規範意識を持って生活するという態度について、71%の保護者が十分またはほぼ十分育成されたと回答している。 ③④アンケートでは、スクールカウンセラーの活用等生徒への支援体制の確立等の取組により生徒が安心して学校生活を送ることや生徒主体の学校行事を実施することで積極的に学校行事に参加する生徒が増え、また、各部の活動を広報することで部活動加入率が上がり活発化した部活動が増えたことについて、61%の保護者が、十分またはほぼ十分できたと回答している。しかし、体育祭等は生徒主体の運営ができるように指導してほしいという声もあった。（学校評議員）①社会人基礎力としてコミュニケーション能力が必要だと思う。会社ではチームで仕事をやるのが多いので、コミュニケーション力を充実させてほしい。④部活動が活性化すると、学校も良くなる傾向がある。さらに活性化を図ってほしい。 | ①基本的な生活習慣やマナーが定着するよう、全校集会を実施し周知徹底を訴えた。多少の手応えはあったが十分とは言えない。 ②校内外の巡回指導等しているが地域の方々からのマナー違反の苦情が後を絶たない。 ③カウンセリングは受ける生徒も多く、活用しやすいようである。 ③ケース会議や生徒情報交換会は定着し、授業担当者間の情報の共有はできていく。授業担当者以外との共有化が課題である。③1・2学年の面談回数は実施できなかったが、保護者からの実施要望もあり検討する。 ④学校行事や文化祭等の新校舎移転に伴う物品等の移動は、教員が中心となり生徒の協力も得て無事完了した。これにより部活動への愛着や部員同士の絆が深まった。④若干部活動加入率が上昇したが、さらに上昇させる手立てを考える必要がある。 | ①②根気強く組織的な指導を継続する。また、社会人基礎力育成にはコミュニケーション力が必需であるため、更に向向上させるべく授業や授業外で取組を強化する。 ②遅刻指導を継続し、自転車のルール違反は自転車指導週間等で周知徹底させる。 ③生徒情報交換会には全教員が参加しているため、ケース会議も授業担当者に限定せず、全教員に情報の共有化を図る。③家庭と学校が協力合うために面談を活用する。 ④新校舎での活動等、広報を充実させる。 |
| 3 進路指導 | ①実質的・体験的学習の機会拡大と充実を図る。 ②勤労観や公共心、社会奉仕の精神を涵養する。 ③進路選択体制の充実 | ①②商業と工業の連携を強化し、キャリア教育の推進と生徒の主体的な活動への支援を通して基礎的・汎用的能力と自分の進 | ①キャリア教育実践プログラムのもとで、商業と工業の連携による学科を超えた教育内容を充実させ、各学年の状況に応じた進路ガイダンス、説明会、外部講師や卒業生による進路講演会等を実施する。①1学年の「ものづくりとビジネス」では、学科の枠を超え、ビジネスマナー、商品開発（パン開発）等のビジネス的要素と、ボックス作成、ストラップ作成等の技術的要素であるモノづくりを行い、両学科を融合した | ①アンケートでは、85%の生徒が、各学年に応じた進路ガイダンス、説明会、外部講師や卒業生による進路講演会等が実施され、進路実現に向けての力が育成されたと回答している。①キャリア教育では多くの外部機関に依頼し商・工の枠を超えた進路ガイダンス、説明会、外部講師や卒業生による進路講演会を実施することができた。①1学年の「ものづくりとビジネス」では、学科の枠を超え、ビジネスマナー、商品開発（パン開発）等のビジネス的要素と、ボックス作成、ストラップ作成等の技術的要素であるモノづくりを行い、両学科を融合した | ①キャリア教育実践プログラムに従い、引き続き外部講師、卒業生による進路講演会等を充実させ、生徒が進路実現に向けて視野を広め、自ら行動できる姿勢を身につけさせていく。①1学年の「ものづくりとビジネス」では、学科を超えた学習を通しキャリア教育 | （保護者）①アンケートでは、商業と工業の連携による学科を超えた教育内容を充実させ、各学年の状況に応じた進路ガイダンス、説明会、外部講師や卒業生による進路講演会等を実施したことについて、65%の保護者が十分またはほぼ十分できたと回答している。 | ①外部講師や卒業生による進路講演会等は生徒の関心が高く生徒や保護者から好評を得ている。 ②③インターンシップは希望制にしたため参加生徒の増加は至らなかったが、その | ①1学年については、「ものづくりとビジネス」で学科の枠を超え学年の状況に合った進路ガイダンスを実施しているが、今後キャリア教 | |

| 視点 | 4年間の目標 (平成28年度策定) | 1年間の目標 | 取組の内容 | | 校内評価 | | 学校関係者評価 | | 総合評価(3月31日実施) | |
|----|----------------------|---|---|---|--|---|--|---|---|--|
| | | | 具体的な方策 | 評価の観点 | 達成状況 | 課題・改善方策等 | (3月24日実施) | 成果と課題 | 改善方策等 | |
| 支援 | を図る。 | 路を自分で描き、実現しようとする力を育成する。 ③進路資料室の充実と支援の促進を図る。 | 卒業生による進路講演会等を実施する。 ②インターンシップや体験的な活動を通して勤労観や公共心を養い、自分の進路を自分で描き実現しようとする力を育成する。 ③進路指導(進路相談)のために必要な資料をそろえ、生徒の意識啓発につながるよう見やすく配置し、生徒が自主的に活用できる環境を作る。 ③進路実現のための基礎学力定着をさせるためにガイダンスグループと学年との協力体制を確立させ、生徒情報の共有を図り、LHRや総合的な学習の時間を有効活用しながら就職・進学についてきめ細かな指導を行う。 | ①動に参加する生徒が増加したか。 ③生徒が自主的に活用するための整備ができたか。 ③LHRや総合的な学習の時間を有効活用できたか。 | 学習に取り組むことができた。 ②③2学年では、夏季休業中にインターンシップを実施した。昨年と変わらぬ人数の生徒が参加をし勤労観等を養った。また、キャリアデザインではSPI対策の充実や“高校生と社会人の意識の差”を実感させる業者のロールプレイ型ガイダンスの実施をした他、進路実現に向け業界・業種を理解をさせるため、各自が進みたい業界を調べ、学年と協力し「業界企業研究レポート発表会」で代表生徒が学年全員の前で発表した。これらの多角的アプローチにより生徒たちは刺激を受け合い、自らの進路を描き実現しようとする力を身に付けることができた。 ③新校舎で様々な進路相談室・進路閲覧室を教師・生徒共々活動しやすい環境に整えることができ、生徒が積極的に活用した。資料は、就職では企業を五十首順で整理し、進学では学科ごとにファイルの色で区別するなど整備することができた。 ③就職では約900社からの求人があり、そのため就職希望者が例年より増加した。1次合格の生徒が72%と例年より多く見られた。進学に関しては、例年同様指定校を積極的に活用し合格者の増加が見られ、いずれも進路実現をすることができた。 ③LHRや総合的な学習の時間において、進路進捗検査などを実施し、この結果を十分に活用し生徒の適性について十分理解させることができた。 ③2学年のキャリアデザインで使用している進路ノートは生徒の実態に合わせ、今年度から全面的に改訂された。体系的に展開されているため、教師からは指導しやすく、生徒からは分かりやすく、好評であった。 | ①結び付けられるよう検討を進める。 ②生徒の就業体験機会であるインターンシップが失われぬよう、工夫を図る。 ③進路実現に向けて資料の充実を図り、自らが検索し発見につながる場の提供に努める。コンピュータ等の導入が今後の課題である。 ③多くの指定校・AO入試等の進学資料や求人資料が見込まれるので、これら大量の整備を迅速に行い、生徒の利用に支障をきたさないよう活用しやすい環境を更に整える。 ③2学年のキャリアデザインで使用している進路ノートを更に有効活用できるように、改善を要する点がないか検討する。 | ②アンケートでは、インターンシップ(企業や施設等における体験活動)、清掃等の環境美化活動への参加をすることにより、勤労観や公共心、社会奉仕の精神を育むことについて、60%の保護者が十分またはほぼ十分でないと回答している。 ③アンケートでは、進路資料室の充実と支援の促進を図り、LHRや総合的な学習の時間を有効活用しながら就職・進学についてきめ細かな指導を行うことについて、58%の保護者が十分またはほぼ十分でないと回答している。 (学校審議員) ②インターンシップは、学年生徒の1/4体験で3日実施というのが多い。体験者を多くし、長期間の実施したほうが効果的であると思う。 | 分2学年のキャリアデザインでは、例年より様々な取組を実施し、生徒自らの進路を描き実現に向けての力を育成した。 ③求人数激増の就職と例年と同じ多くの指定校・AO入試等の進学、それら大量の資料整備と新校舎への移転が重なったが、生徒に支障をきたさないよう新しい進路指導室の整備を迅速に行い活用しやすい環境を整えた。 ③キャリアデザインで使用している進路ノートは全面改訂され、進路実現のためより生徒に合った内容になった。 | 育の成果の検証を図る。 ②夏季休業の短縮は今後も継続されるため、インターンシップは希望制を考慮していくが、より多くの生徒が参加できるよう工夫を図る。 ③進学資料が分野ごとに検索できるように資料の充実を図る。また、進路資料室を生徒がより自主的に活用するため改善点はなるべく検証を継続する。 ③進路ノートがさらに改善を要する点はないか検証する。 | |
| 4 | 地域等との協働 | ①学校運営協議会制度を導入し、地域との協働を図る。 ②広報活動を充実させ情報の発信を推進する。 | ①設立に向けた準備を進める。 ②学校説明会を進化・発展させるとともに、新校舎内見学をスムーズに実施する。 ②ホームページを一新するとともに速やかな情報発信に努める。 ②地域交流の行事などへの参加を、学校全体で呼びかけ、協力をあおぐ。本校の状況を地域の方々に理解していただき、地域交流を立案する。 ②他のグループと連携し広報委員会の活動を強化させることにより、情報発信を速やかに行う。 | ①設立の目的がわかったか。 ②専門高校の魅力や特色を伝える広報活動ができたか。 ②生徒の企画・運営による学校説明会等の広報活動ができたか。 ②ホームページ等の情報発信を効果的、かつ速やかに行うことができたか。 ②充実した地域交流が行えたか。 ②広報委員会の情報発信が速やかに行えたか。 | ①第1回評議員会議で学校運営協議会設立の説明を理解していただいた。 ②学校説明会を生徒主体で行い、商工高校の魅力や特色を伝えることができた。生徒主体の説明会が商工スタイルとして定着している。説明会実行委員だけでなく、生徒会や商業部、各科の生徒たちが、協力して会を企画運営する体制が整い、中学生やその保護者に分かりやすく伝える工夫をすることができた。また、新校舎完成に伴い、見学ルートや説明会を新しいパターンに変更・改良し、新たな魅力発信に向けて取組んだ。よりよい広報活動ができるよう積極的に行動し、参加者の方の好評を得たと思われる。 ②生徒や保護者、地域の方々にとり、利用しやすいホームページの作成を行った。速やかな情報発信に努め、学校と家庭や地域が情報の共有を図る環境を作ることができた。 ②中学校への学校説明会や全公立展、生徒による中学校説明会等で積極的に広報活動を行った。また、引越直後、説明会の開催が難しい中、新校舎の見学ツアーのみ実施した所、400名を超える中学生と保護者の来校があり、新校舎を広報することができた。さらに中学校の先生方対象の学校説明会の他、今年度初めて、塾の担当者対象の学校説明会を開催した所、好評で、本校をより理解していただくことができた。 ②ホームページでは更新頻度をあげて情報発信を行うと共に、写真を多く使って視覚的に理解しやすいようにし、また操作生を工夫した。 ②左山自治会の夏祭り・今井町防災訓練等の地域の行事に参加協力し、交流を行った。吹奏楽部が今井小学校での音楽フェスティバル参加や今井地域ケアプラザでの朗読演奏等の活動を行った。 ②新校舎での広報委員会の活動を強化させるには至らなかった。 | ①学校運営協議会の設立に近隣の高校や同じ専門学科の高校との情報交換をしながら具体的に準備を進めることが課題となる。 ②本年度、学校説明会の参加者が増加した。この状況を踏まえ、参加者への柔軟な対応が可能な、説明会の在り方について、さらなる検討・改善を行っていく。生徒の企画運営力の向上を目指して、取り組みたい。 ②人々から必要とされている情報をタイムリーに発信するには、情報発信の計画をしておく必要がある。事前の段取りを計画的に行う。 ②地域交流に参加する生徒が一部に偏らないよう全校に向けて協力を仰いでいく。 ②新校舎では昇降口や各階ごし掲示板が設置されているので、来年度はこれらを有効活用するなど広報委員会の活動活性化へ方策を検討していく。 | (保護者) ②アンケートでは、防災訓練等、地域の行事への教員・生徒の積極的な参加や地域清掃活動の実施により、地域との交流や協働が図られたことについて、45%の保護者が十分またはほぼ十分でないと回答し、39%がよくわからないと回答している。 ②アンケートでは、生徒の企画・運営による中学生対象学校説明会の実施や効果的かつ速やかなホームページ等の情報を発信して、広報活動を充実させることについて、61%の保護者が、十分またはほぼ十分でないと回答している。 (学校審議員) ②地域交流は、本来の目的(夏祭り等)以外にも世代を超えたコミュニケーション(携帯の使い方や高齢者に教える等)が取り、お互いの距離が縮まるので積極的に参加してほしい。 | ①第1回評議員会議で学校運営協議会設立の説明を行ったが設立に向けた準備を進めることが課題となる。 ②生徒主体の学校説明会は、入学した生徒やその保護者から好評であるが、教員による中学校説明会等では、まだまだ専門学科の本校への理解が不十分であることを実感した。学習塾対象・中学校の先生方対象の学校説明会等で引き続き広報する。 ②ホームページの一新が好評である。 ②吹奏楽部の今井小学校での音楽祭出場等、地域行事に関わることで生徒の様々な活動を校内外に発信した。 | ①学校運営協議会の設立に近隣の高校や同じ専門学科の高校との情報交換をしながら準備を進める。 ②来年も学習塾対象の学校説明会を開催し参加者を増やす工夫をし、専門学科の理解を図る。中学校の先生方対象の学校説明会も同様にしていく。 ②ホームページをさらに充実させタイムリーな情報提供を図る。 ②広報委員会の活動をより発信させる。 | |
| 5 | 学校管理 学校運営 | ①安全安心な学習環境を維持構築する。 ②ミッションに沿った学校経営の推進を追究する。 ③教育公務員としての規範意識を醸成する。 | ①新校舎への移転準備が計画的にできるよう、職員・生徒が速やかに情報を提供する。 ①移転後の状況について確認し、授業等に支障がないように対応する。 ①実習棟の除去工事、グラント改修の計画を周知徹底させる。 ②中間検正し、後半は1年間を総括する。 ③職員の規範意識の向上を図る。 | ①情報が共有され、新校舎への移転が安全に行われたか。 ①移転後の問題点に速やかに対応できたか。 ②PDCAサイクルを実践できたか。 ③職員研修により、職員の規範意識の向上を図れたか。 | ①教員対象のアンケートでは、79%の教員が、新校舎への移転に関する情報を共有し、生徒・教員が新校舎への移転を安全に行い、また、移転後の問題点に速やかに対応し授業に支障のないよう学習環境を整えたと回答している。 ①新校舎への移転は無事終了し、学習活動上の不備を洗い出し、敏速に対応した。 ①実習棟の除去工事やグラント改修計画、関係部署への周知を心がけ徹底できた。 ①新校舎落成記念としてPIAとの共催による保護者対象講演会を開催した。実践的な内容で、その後の新校舎見学と共に大好評を得た。また、近隣の方対象の新校舎の見学も実施し、新しく専門学科ならではの施設設備に興味を持っていただき、好評であった。 ②教員対象のアンケートでは、89%の教員がPDCAサイクルを実践し、ミッションに沿った学校経営の推進を追求したと回答している。 ②学校評価の1-5の取組の内容で、引越のため実施できなかった項目を2学期に集中して実施する等、具体的に達成状況や改善がみられた。 ③教員対象のアンケートでは、97%の教員が日常点検の実施により危機管理意識を高めると共にAEDの操作研修や外部講師による人権研修等の事故防止研修を実施し、教育公務員としての規範意識を高めたことと回答している。 ③人権研修会は「子供の虐待・ネグレクトの現状と課題」と題し講演会を実施し、聞く機会がなかった重要な話を聞くことができ非常に参考になり即実行できる具体例も様々あったと好評で、理解を深化させることに繋がった。 | ①新校舎への移転により、学校行事において従来とは異なる点があることを認識し、きめ細かく立案していく。 ①実習棟除去工事やグラント改修計画の周知の徹底が不十分であった。 ①グラント整備計画や敷地内の整備計画の完成年度に向け、全職員への情報提供を欠かさないようにする。 ③少しでも気になる事項はそのままにせず、改善策を考え実行し、お互いの行動を気遣い、声を掛け合う等、今後も不祥事をめざしていく。 ③人権等の研修は、職員の規範意識の向上や知識理解の深化のため、毎年継続して実施していく。 | (保護者) ①アンケートでは、新校舎への移転に関する情報を共有し、生徒・教員が新校舎への移転を安全に行い、また移転後の問題点に速やかに対応し、授業に支障のないよう学習環境を整えたことについて、81%の保護者が十分またはほぼ十分でないと回答している。 ①安全生を考慮、体育館・部室棟を早く建替えるべきだ。 ③アンケートでは、日常点検の実施により危機管理意識を高めると共に事故防止研修を実施し教育公務員としての規範意識を高めたことについて62%の保護者が十分、ほぼ十分でないと回答している。 (学校審議員) アンケートの回収率が低い場合、その結果だけ頼るのではなく、検証が必要である。 | ①新校舎への移転する際の情報を全職員で共有し、新校舎への移転が安全に行われた。各科の生徒等が自分達の科の移動準備はもとより、人手の必要な図書室や調理室等の荷造りを手伝う等協力があり、移動準備がスムーズに行えた。 ②前半を踏まえ後半のPDCAサイクルの実践も概ね実施できた。 ③事故防止研修を実施し規範意識の向上はみられたが、さらに各自の規範意識を高めるため研修を重ねる。 | ①来年度も新校舎の施設設備等不具合があれば迅速に対応していく。 ②来年度もPDCAサイクルの実践を丁寧に行う。 ③少しでも気になる事項はそのままにせず、改善策を考え実行し、お互いの行動を気遣い、声を掛け合う等、今後も不祥事をめざしていく。 | |